

日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

当期は、コストアップを拡販、コスト削減、価格改定でカバーし営業利益は前期並。

次期は、コストに見合った適正な販売価格の確保に注力し、前期並の利益水準を維持。

〔平成20年3月期連結決算〕

株式会社日清製粉グループ本社（社長 村上 一平）の平成20年3月期につきましては、引き続き販売競争が激化する中、各事業において新製品投入やシェアアップを図り、売上げを拡大するとともに、更なるコスト削減や生産性向上に取り組んでまいりました。また、輸入小麦の政府売渡価格の引上げ等によるコストの大幅な上昇は、内部努力で吸収できるレベルを超えているため、価格改定を実施いたしました。

さらに、こうした業績改善への取組みと併せて積極的な利益還元を継続し、当期におきましても5百万株、55億35百万円の自己株式取得を実施しました。

この結果、売上高は4,318億58百万円（前期比103.3%）と増収、営業利益は191億91百万円（前期比100.0%）と前期並となりましたが、経常利益は穀物相場高騰を受けた配合飼料関連会社の持分法投資利益が減少し221億80百万円（前期比97.2%）と減益となりました。また、当期純利益は各事業において将来に向けて事業基盤を確立していくために生産体制改善関連費用等の特別損失を計上したことに伴い111億47百万円（前期比90.6%）と減益となりました。

〔平成21年3月期連結業績予想〕

国内においては、更なる販売シェアの獲得やコスト削減を進めるとともに成長分野への展開を図り、収益構造を改善してまいります。特に、販売面においては需要喚起のための広告宣伝活動と付加価値の高い新製品開発、発売に注力していきます。また、本年4月には輸入小麦の政府売渡価格が30%引上げられるなど、コストアップが継続しておりますが、各事業においてコストに見合った適正な販売価格の確保に努めております。

成長が期待できる海外事業展開においては、今後も積極的に注力し、その進捗のスピードアップを図ります。

株主還元につきましては、今後も戦略投資との進捗見合いにより積極的に実施いたします。

以上より平成21年3月期の連結業績予想におきましては、売上高は4,750億円（前期比110.0%）、営業利益は195億円（前期比101.6%）、経常利益は222億円（前期比100.1%）、当期純利益は125億円（前期比112.1%）としております。

以 上